ポターのマザーグースの伝承

—『グロスターの仕たて屋』を中心に—

寺前　早苗

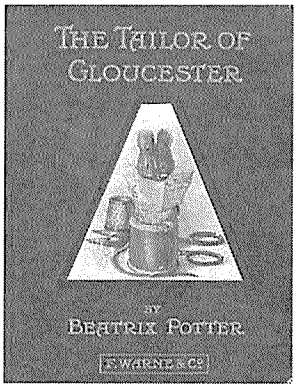
はじめに

ポター（Hellen Beatrix Potter, 1866-1943）のイラストつき童謡集である *Beatrix Potter's Nursery Rhyme Book*（以下『童謡集』と表記）は、フレデリック・ウオーン（Frederick Warne）社から、新版が 1995 年に出版された。

2001 年にはじめて CD つき童謡集が出版されたが、タイトルは、以前のままで、*Beatrix Potter's Nursery Rhyme Book* であった。2003 年には *Beatrix Potter Nursery Rhyme Book* とタイトルから所有格の 's が省かれた。さらに 2008 年には、タイトルのポターの名前の後ろにちいさい字で *TM* が入り最後に "and CD" が加わった、*Beatrix Potter TM Nursery Rhyme Book and CD* が出版された（以下 CD 版と表記）。これらの CD 版の CD は Abbey Road Studio の有名な音楽ミキサーである Peter Cobbin によって製作された。

CD 版の『グロスターの仕たて屋』のマザーグース

ポターは、『グロスターの仕たて屋』（*The Tailor of Gloucester*）を 1902 年 12 月に 500 部を私家版として出版した。そして翌年の 1903 年にフレデリック・ウオーン社が『グロスターの仕たて屋』(以下、『仕たて屋』と表記)を出版し、今日にいたるまで、世界中で愛読されている。下記は 1903 年の初版本の表紙（Internet Archive より）。



1968 年にウォーン社は、『元原稿からの「グロスターの仕たて屋」』（*The Tailor of Gloucester from the Original Manuscript*; 以下『元原稿』と表記）を出版した。この本は翌年の 1969 年にも出版された。どちらも中身は同じなのだが、カバーの裏の記載事項の内容が少し異なる。ここでは、1969 年版のものを下記に上げよう。

> *The Tailor of Gloucester*, as originally written by Beatrix Potter, was almost twice the length of the small edition published by Frederick Warne and Company . . . even in the privately printed edition, which she published herself, she was obliged to sacrifice some eleven hundred words and in the Warne edition that followed, a further thousand words were deleted.

上記から、『グロスターの仕たて屋』の元原稿は、ウォーン社版のほぼ 2 倍の長さがあったが、私家版でポターは 1100 語ほど削除せざるを得ず、ウォーン社でさらにもう 1000 語が削除されて、『仕たて屋』では 2000 語以上が元原稿より削除され、『元原稿』の半分になってしまったことがわかる。

さて、『童謡集』の最終ページには「出版者の注」（Publisher's Note）があり、次のような童謡が挙げられている。CD 版でも、同じである。

> *Nursery Rhymes taken from Beatrix Potter's works*
> From the original manuscript of *The Tailor of Gloucester*: I went into my grandmother's garden; Once I saw a little bird; Hey diddle dinketty; Sieve my lady's oatmeal; Four-and-twenty tailors; I had a little nut-tree; Buz, quoth the blue fly; Hey diddle diddle; Little Poll Parrot; Three little mice sat down to spin; Hark! hark! the dogs do bark; Old King Cole; Ride a cock-horse.

したがって、『童謡集』では『元原稿』から 13 のマザーグース童謡が取り入れられ、CD 版では、その歌が音とリズムと共に「人が声で歌う歌」として再現された。

ここで本題に入る前に、簡単に『グロスターの仕たて屋』のあらすじを紹介しよう。市長から、クリスマスの婚礼用に、上着とチョッキの注文を受けた仕たて屋が、あとは縫うだけにして、一日の仕事を終え、仕事場を去り、大学通りの家に帰った。彼は、一緒に住んでいた猫のシンプキンに、パン・ミルク・ソーセージと紅色の穴かがりの糸（twist）を買いにやらせた。その間、彼は、食器棚のティーカップなどの中にいたシン

プキンのネズミたちを助けてやった。買い物から帰って来たシンプキンは、ネズミが1匹もいないので、怒って、穴かがりの糸を隠した。それから仕たて屋は、三日間、熱で寝込んでしまい、うわごとでも、穴かがりの糸がないと嘆いた。

昔の言い伝えでは、クリスマス・イヴとクリスマスの朝には、全ての動物たちは話ができるそうだ。クリスマス・イヴが来て、やがて教会の鐘が 12 時を打ち、クリスマスの朝になった時、シンプキンは仕たて屋の家を出て、雪の街をさ迷い、仕たて屋の店まで来た。店の中ではネズミたちが陽気に歌を歌いながら、裁縫をしていた。しかし、最後には、「穴かがりの糸がない」（“No more twist!”）と歌った。この光景を見たシンプキンは急いで、家へ帰り、隠していた穴かがりの糸を出した。熱の下がった仕たて屋が、シンプキンと一緒に店に行くと、うれしいことに、仕事台の上に出来上がった上着とチョッキがのっていた。しかし、紅色のボタン・ホールの所に小さな紙がとめてあり、とても小さな文字で「穴かがりの糸が足りない」とあった。以来、仕たて屋の運が開け、彼は金持ちになった。彼は、グロスターの裕福な商人や近隣の紳士たちにすばらしいチョッキを作った。なかでもボタンホールはとても素晴らしく、きれいで、老人がメガネをかけてやった仕事とは思えなかった。ボタンホールの縫い目はとても小さいので、まるで小さなネズミたちがやったかのようだった。

ここで『グロスターの仕たて屋』の版について触れておこう。この本は 1903 年の初版以来、版を重ねて増刷されてきたが、特に、二つの版が注目されるだろう。一つは、1997 年出版のもので、カラー印刷の技術が格段によくなったものである。もう一つは、2002年のもので、挿絵と文字とが別のページになるように組版が変わったものである。この論考では読者の便宜を考慮して、『仕たて屋』の頁数に 1997 年版と 2002 版の二つを挙げた。

では、以下に 2008 年の CD 版を元に、13 のマザーグース童謡を一つずつ検証しよう。なお、当然のことながら、以下のマザーグース童謡が引用されるのは、動物たちが話のできるクリスマス・イヴの夜から翌朝のクリスマスの朝までの間である。

1. “I went into my grandmother’s garden” (p. 11)　*ODNR* 178.

なぞなぞで、答えは tobacco pipe。挿絵は、*The Tale of Tom Kitten* の表紙を開き、すぐにでてくるヒルトップの玄関へ行く道とその庭の絵である。この絵は *Beatrix Potter and Hill Top* のカタログの表紙でもある。

I went into my grandmother's garden,
  And there I found a farthing.
I went into my next door neighbour's,
  There I bought a pipkin and a popkin,
A slipkin and a slopkin,
A nailboard, a sailboard,
  All for a farthing.

『仕たて屋』(1997 年：p. 24；2002 年版：p. 47) では後半部分が引用されている。次に上げよう。

"And then I bought
  A pipkin and a popkin,
  A slipkin and a slopin,
  All for one farthing—

and upon the kitchen dresser!"

1 行目で "there" が "then" に変えられ、"A nailboard, a sailboard" が削除され、最後に "and upon the kitchen dresser" が付加されている。店の中で針仕事をしているネズミたちが、店の戸口でニャーと鳴くシンプキンに答えて歌う歌の一つ。

『元原稿』では、p. 54 にある。また、すべて『元原稿』では歌が筆記体で書かれている。『元原稿』では 1 行目に there を使っている。

2. "Once I saw a little bird" (p. 16)　*ODNR* 46.

挿絵はスズメ 1 羽で、歌詞のタイトルの上にいる。

Once I saw a little bird
  Come hop, hop, hop!
So I cried: 'Little bird,
  Will you stop, stop, stop?'

And was going to the window
To say, 'How do you do?'
But he shook his little tail,
And away he flew.

『元原稿』にのみに載っている（p. 49）。スズメがそれぞれいろいろな歌を歌う箇所の最後の歌で道の両側から、スズメ全部で歌う。"Little Poll Parrot" の次に歌われる。

CD 版との相違は、下から 3 行目の "How" が『元原稿』では小文字で、最後の言葉、"flew" の後には、ピリオドではなく感嘆符を使っていることである。

3. "Hey diddle dinketty" (p. 18)　*ODNR* 305.

挿絵は、正装した男女が踊っている。

Hey diddle dinketty, poppetty pet!
The merchants of London they wear scarlet;
Silk in the collar, and gold in the hem,
So merrily march the merchantmen!

『仕たて屋』(1997 年版：p. 23；2002 年版：p. 44）では、店の中で針仕事をしているネズミたちが、店の戸口でニャーと鳴くシンプキンに答えて歌う歌の一つ。

『元原稿』(p.52）では、最後の言葉を "merchant men" と 2 語に分けている。

4. "Sieve my lady's oatmeal" (p. 18)　*The Oxford Nursery Rhyme Book* の "Draw a Pail of Water" の第 2 スタンザ（p.132)。

挿絵は、ネズミたちがオートミールの袋の下で走りまわり、袋の上には子ネズミを抱いたお母さんネズミがいるもの。

Sieve my lady's oatmeal,
Grind my lady's flour,
Put it in a chestnut,
Let it stand an hour –
One may rush, two may rush,

Come, my girls, walk under the bush.

『仕たて屋』(1997 年版：p. 23；2002 年版：p. 43) では、針仕事をしながらネズミたちが歌う二つ目の歌で、上記の 4 行目まで歌ったところで、シンプキンに「ニャー」と鳴かれて、中断させられる。

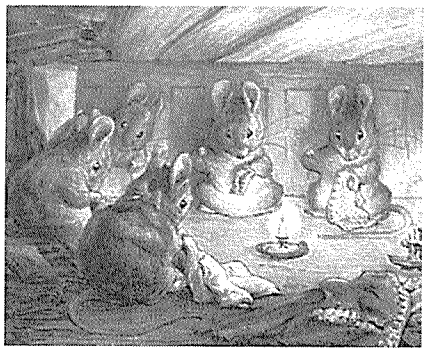
『元原稿』(p.51) では、『仕たて屋』の 4 行に、"One may –" (5 行目) を加えたところで、シンプキンに中断させられる。

5. "Four-and-twenty tailors" (p. 19)　*ODNR* 495.

挿絵は、ネズミたちが一生懸命針仕事をしている姿を歌詞の下に大きく描き、右上には巻いた糸の上にめがねをかけたネズミが座って、*The Tailor and Cutting* という裁縫の仕様書を読んでいる。この仕様書を読んでいる挿絵が、初版本の表紙に使われている。

Four-and-twenty tailors
Went to catch a snail,
The best man amongst them
Durst not touch her tail;
She put out her horns
Like a little kyloe cow,
Run, tailors, run!
Or she'll have you all e'en now!

『仕たて屋』(1997 年版：p. 22；2002 年版：p. 43) では、針仕事をしながらネズミたちが歌う最初の歌。全行歌われる。『元原稿』(p.50) でも、全行を引用している。
下記は一生懸命針仕事をするネズミたちの挿絵(初版本 p. 62;Internet Archive より)。



6. “I had a little nut-tree” (p. 20)　*ODNR* 381.

挿絵は、*The Tale of Pigling Bland* の Pigling の彼女、Pig-wig の後ろ姿に、スズメが左に 2 羽、右に 1 羽飛んでいる。

I had a little nut-tree,
　Nothing would it bear,
But a golden nutmeg,
　And a silver pear.

The king of Spain’s daughter
　Came to visit me,
And all for the sake of
　My little nut-tree!

I skipp’d over water,
　I danced over sea,
And all the birds in the air
　Couldn’t catch me.

『元原稿』にのみ載っている（p.47)。『元原稿』では、第 2 スタンザまで引用されている。上記の CD 版との相違は“nut- tree” にハイフンがないことと、スタンザに分けていないために、4 行目の最後が、ピリオドではなく、コンマになっていることである。

通りを歩きながらシンプキンが聞くスズメの歌の三つ目である。

7. “Buz, quoth the blue fly” (p. 21)　*ODNR* 58.

挿絵は、*The Tales of Mrs. Tittlemouse* からで、カエルとミツバチとネズミが歌詞の下に、右上にミツバチが 1 匹いる。

Buz, quoth the blue fly;
hum, quoth the bee;
Buz and hum they cry,
and so do we!

In his ear, in his nose,
Thus do you see,
He ate the dormouse,
Else it was thee.

『仕たて屋』(1997 年版：p. 21；2002 年版：p. 40) では、第 1 スタンザのみ引用されている。元原稿には見当たらないので、『仕たて屋』出版時に付加されたようである。

コウモリたちが眠りながら歌い、これを聞いたシンプキンはいらいらしながら、立ち去る。

8. "Hey diddle diddle" (p. 39)　*ODNR* 213.

挿絵はない。

Hey diddle diddle,
The cat and the fiddle,
The cow jumped over the moon;
The little dog laughed
To see such sport,
And the dish ran away with the spoon.

『仕たて屋』(1997 年版：p. 23；2002 年版：p. 39) では、2 行目までがシンプキンの言葉として引用されている。彼は、"the cat and the fiddle!" のあとに、"All the cats in Gloucester—except me," と言って、クリスマスで、グロスターのネコたちがおおいに盛り上がっているのを妬ましく思う。

『元原稿』(p.40) も 2 行目まで引用しているが、『仕たて屋』が "said Simpkin" なのに対して、"sighed Simpkin" と、シンプキンの感情を強く表現している。

9. "Little Poll Parrot" (p.47)　*ODNR* 419.

挿絵は、ネズミがトーストをかじっている。

Little Poll Parrot
Sat in a garret
Eating toast and tea!
A little brown mouse
Jumped into his house,
And stole it all away!

『元原稿』にのみ載っている（p.48）。シンプキンが通りを歩きながら聞く小鳥の歌の一つ。

10. "Three little mice sat down to spin" (pp. 48-49)　*ODNR* 349.

挿絵は、この歌のために描かれたもので、3 匹のネズミたちが糸車を回している絵、コートを縫っているネズミたちをネコが覗いている絵、「入って、糸を切ってあげようか」というネコの言葉に驚いて、糸車を持って、逃げるネズミたちの絵の三つの大きな絵とタイトルの上に糸と針山とハサミなどの小さな絵がある。3 行のスタンザ（3 行連）が二つ。

Three little mice sat down to spin,
Pussy passed by and she peeped in.
'What are you at, my fine little men?'

'Making coats for gentlemen.'
'Shall I come in and cut off your threads?'
'Oh, no! Miss Pussy, you'd bite off our heads!'

『仕たて屋』(1997 年版 : p. 23 ; 2002 年版 : p. 44) では、6 行連の 1 スタンザである。

『元原稿』（p.57）でも、6 行連であるが、1 行目の行末に感嘆符があり、2 行目の "passed" の綴りが "pass'd" と "e" が省略されている。ともに 1 重の引用符ではなく、2 重の引用符が使用されている。

11. "Hark! hark! the dogs do bark" (p. 56)　*ODNR* 140.

挿絵は二つあり、一つはタイトルの上の犬 3 匹で、*The Tale of Jemima Puddle-Duck*

からである。もう一つは白黒で、歌詞の下にあり、*The Tale of Little Pig Robinson* を思わせるもの。

Hark! Hark!
The dogs do bark,
The beggars are come to town,
Some in tags
And some in rags
And one in a velvet gown!

『仕たて屋』には載っていない。『元原稿』(p. 55) にのみ載っている。シンプキンの「ニャー」に答えて、ネズミたちがハサミで布を分けながら、元気に歌う。

12. "Old King Cole" (p. 57)　*ODNR* 112.
5 行連と 6 行連の二つのスタンザ。挿絵はない。

Old King Cole was a merry old soul,
And a merry old soul was he,
He called for his pipe
And he called for his bowl,
And he called for his fiddlers three—

Fiddle, fiddle, fiddle!
Went the fiddlers three,
Fiddle, fiddle, fiddle, fiddle, fee!
Oh there's none so rare
As can compare
With King Cole and his fiddlers three!

『元原稿』にのみ載っている（p .39)。全行が引用されている。Sun Inn の屋根裏で明かりがつき、バイオリンの音色と共に聞こえる。

13. “Ride a cock-horse” (p. 59)　*ODNR* 29.

挿絵は、*The Tale of Johnny Town-Mouse*から、一頭立ての荷車と3匹のアヒルの絵。

Ride a cock-horse to Banbury Cross
To see a fine lady upon a white horse;
Rings on her fingers and bells on her toes,
And she shall have music wherever she goes!

『元原稿』(p.38) にのみ載っている。通りを歩きながら、シンプキンが、馬小屋の中にいる太った馬たちが歌っている歌をうけて、この歌の1行目を歌う。

おわりに

以上のように、現在の『グロスターの仕たて屋』には載っていない六つのマザーグース童謡が、『童謡集』及びCD版では、『元原稿』から拾い上げられた。そして『元原稿』では、童謡の一部の引用であったものも、『童謡集』及びCD版では、完全な形で再現され、マザーグース童謡の継承に大きく貢献している。

『童謡集』及びCD版で再現された六つのマザーグース童謡を、この論考での番号をつけて、示そう。

2. “Once I saw a little bird”, 6. “I had a little nut-tree”, 9. “Little Poll Parrot”, 11. “Hark! hark! the dogs do bark”, 12. “Old King Cole”, 13. “Ride a cock-horse”

現在の『グロスターの仕たて屋』に載っている七つのマザーグース童謡も記そう。

1. “I went into my grandmother’s garden”, 3. “Hey diddle dinketty”, 4. “Sieve my lady’s oatmeal”, 5. “Four-and-twenty tailors”, 7. “Buz, quoth the blue fly”, 8. “Hey diddle diddle”, 10. “Three little mice sat down to spin”

参考文献

Opie, Iona and Peter. *The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes.* Oxford: Oxford UP, 1997. First ed., 1951. (*ODNR* と略記)

-----. *The Oxford Nursery Rhyme Book.* Oxford: Oxford UP, 1973.

Potter, Beatrix. *The Tailor of Gloucester.* With new reproductions of Beatrix Potter's book illustrations. New York: Frederick Warne, 1997. With reset text and new reproductions of Beatrix Potter's illustrations, 2002. First ed., 1903.

-----. *The Tailor of Gloucester from the Original Manuscript.* New York: Frederick Warne, 1968. London: Frederick Warne, 1969.

-----. *Beatrix Potter The Complete Tales.* London: Frederick Warne, 2006.

-----. *Beatrix Potter* TM *Nursery Rhyme Book and CD.* London: Frederick Warne, 2008.

-----. *The Tailor of Gloucester.* Digitized by the Internet Archive in 2012 with funding from University of North Carolina at Chapel Hill: http://archive.org/details/tailorofgloucestpott

(てらまえ・さなえ)

Beatrix Potter and Mother Goose's Nursery Rhymes
—Viewed from *The Tailor of Gloucester*

Sanae Teramae

A new edition of *Beatrix Potter's Nursery Rhyme Book* was published in 1995. The book was published with a CD under the same title in 2001. The title was changed into *Beatrix Potter Nursery Rhyme Book* in 2003. The title was changed again with different illustrations in 2008: *Beatrix Potter TM Nursery Rhyme Book and CD.*

Potter published 500 copies of *The Tailor of Gloucester* by herself in 1902. The next year, Frederick Warne and Company published the book, but the length of the company's edition was almost half of the original manuscript of Potter's, according to the back cover of *The Tailor of Gloucester from the Original Manuscript* (Frederick Warne, 1969).

The "Publisher's Note" at the last page of *Beatrix Potter's Nursery Rhyme Book* goes as follows:

> *Nursery Rhymes taken from Beatrix Potter's works*
> From the original manuscript of *The Tailor of Gloucester*: I went into my grandmother's garden; Once I saw a little bird; Hey diddle dinketty; Sieve my lady's oatmeal; Four-and-twenty tailors; I had a little nut-tree; Buz, quoth the blue fly; Hey diddle diddle; Little Poll Parrot; Three little mice sat down to spin; Hark! hark! the dogs do bark; Old King Cole; Ride a cock-horse.

So we can read 13 Mother Goose's nursery rhymes in *Beatrix Potter's Nursery Rhyme Book* and its CD editions. The CD enables us to enjoy the rhymes with their melodies and rhythm.

I discuss these 13 nursery rhymes one by one, consulting *Beatrix Potter TM Nursery Rhyme Book and CD* (2008), *The Tailor of Gloucester* (1997 and 2002 editions), and *The Tailor of Gloucester from the Original Manuscript* (1968 and 1969 editions).